

## 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No. 27

## 目次

・特集：第8回日本生殖看護学会学術集会の報告	1
・第8回日本生殖看護学会学術集会での学び	2
・平成22年度日本生殖看護学会総会報告	3
・平成22年度事業計画及び収支予算案	4
・これから行われる学会・研修会等のお知らせ	5
・2009年度関東地区勉強会報告	5
・各地区で開催される勉強会のご案内	6
・理事会報告	7
・掲示板	7
・もし不妊看護の現場で行き詰ったら	8
・事務局からのお知らせ	8

## 特集：第8回日本生殖看護学会学術集会の報告

## 一人のサポートのありがたさを実感しました



第8回日本生殖看護学会学術集会長 岸田 佐智

第8回日本生殖看護学会学術集会を平成22年9月12日(日)メインテーマ「不妊治療の意味を考えるー治療開始から終結に向けてー」として四国、徳島の地で開催しました。地方での開催であり、参加人数を心配しておりましたが、お陰様で、184名の方々に参加して頂きました。演題も、一般口演12題、ポスター8題となり、皆様の活発なご意見もあり、非常に盛会であったと感じました。場所と時間の関係でご発表会場が2つに分かれ、非常に暑い中移動等も大変だったと思いますが、日ごろの成果を参加者との議論を踏まえ、さらに発展させ生殖看護の課題の発見やさらなる向上を目指していただけたのではないかと存じます。本当にありがとうございました。

学会開催直前には、野田聖子議員が卵子提供による妊娠を発表され、改めて生殖医療・看護における治療の継続や倫理的問題に関する課題が浮上し、時を得たテーマとなったと感じました。初めての体外受精・胚移植に成功してから、30年が経過し、今では日本において、50名に1人の割合での出生となり、2世の誕生も見られ、生殖に関わる技術は目まぐるしく発展・向上を遂げています。この業績を認められ、ロバート G. エドワーズが今年ノーベル賞生理学医学賞を受賞します。しかし、このような技術に対して受ける側の人の心や体は追いついていっているのでしょうか？生殖医療を受ける必要があるかどうか悩みながら、医療の門をたたいて検査や治療を進ませ、それでもなかなか成果が上がらないと、生殖年齢を鑑みながらいつまで、どこまで治療を続けるのかと、治療の度に悩み、区切りや踏ん切りがつかない問題も発生して来ました。生殖医療の門をたたき時期、治療の開始時期、治療に専念する時期、治療を止める時期と、生殖医療を受ける時期を段階に区切りその心の動きの特徴を踏まえて、人生における不妊の意味を考えてみようと思いました。人は生まれ、様々な体験を通して、いずれは死を迎える存在です。その生きていく様々な経験の一つとして「不妊」をどのように捉えるのか一人一人の中でその意味を見出して頂きたいと思っています。

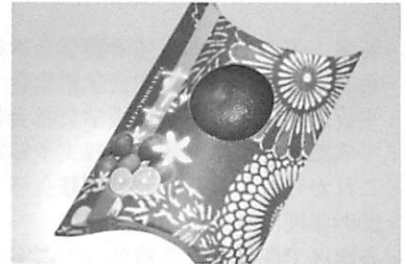
その意味を見出すために、そして、医療技術を応用する時どのように人としての道を考えるべきであるのか、そこに倫理の問題が生じると考えて、本学名誉教授(前徳島大学長)の青野敏博先生に基調講演をお願いしました。徳島大学では、体外受精胚移植を人に適用するに当たり、日本初の倫理委員会を発足・設置

しております。日本において生殖補助医療を導入するまでに、倫理的側面を重要視されてきたその経緯と、また今後の生殖補助医療の場面での看護者として考えるべき倫理的視点についてのご示唆を頂きました。現在、日本においては生殖補助医療に関する法的整備がなされておらず、技術の適用が野放図状態と考えられます。看護者としてこの問題も真剣に取り組まなければいけない状況であると問題提起されたように思います。

また、今回は初めての試みとして、分科会を開催いたしました。治療体験者の方や不妊症看護認定看護師の方、また生殖医療に携わる医師よりそれぞれに問題を提起して頂き、参加者の方々が今抱えている生殖看護における課題に応じて、少人数で議論できればと考えておりました。分科会Ⅰ「不妊治療の体験から考えたこと」は、治療の体験者である山中和子氏より、治療が高度化することによって生じる悩みや葛藤について、体験者であるがゆえに感じられたことについて、“不妊”ではなく“未妊”であるといわれる氏の率直なご意見を頂きました。分科会Ⅱ「不妊症看護認定看護師の病院での役割」は、関正節氏より、総合病院内で不妊症看護認定看護師としての活動のご経験から、さまざまな困難ややりがいについてのご発言を頂き、これからの不妊症看護のあり方について討論して頂きました。さらに、分科会Ⅲ「高齢不妊女性における不妊治療の現状と問題点を考える」では、不妊治療、特に高度生殖補助医療における年齢との関係に関する昨今の問題について安井敏之氏よりご発言を頂きました。各分科会とも論議が活発になされました。

本当にお熱い中、参加者の皆様にとって有意義な1日となったでしょうか？時は、ちょうど徳島名産“すだち”の最盛期でした。友人知人にすだちはないかと声をかけると予想以上に集まり、参加者の皆さまにお渡しすることができました。学会参加のお疲れが、すだちの香りと、ほどよい酸味で癒されましたことをお祈りして、ご報告いたします。

そして最後に、私にとっての初めての学術集会長を任せられ、学会は一人ではできないのだと改めて実感いたしました。皆様一人一人のご尽力、ご協力に感謝申し上げます。



## 第8回日本生殖看護学会学術集会での学び

四国大学看護学部 高野 みち子

私は、今回、徳島大学で開催された第8回学術集会の企画委員をさせて頂くと共に、示説発表、分科会座長という大きな学びの機会をお与え頂きました。結婚後子どもを授かる機会がなかった私自身、今回の学会のメインテーマ「不妊治療の意味を考える」は、深く考えてみたいテーマであり、この学術集会の企画運営に携わらせて頂いた経験は私の宝となりました。

この学術集会の参加を通して学び得たことの一つは、自己の生殖看護観の深まりでした。私は、分科会Ⅰに座長として参加させて頂きました。分科会Ⅰは、「不妊治療体験から考えたこと」と題して、当事者である山中和子さんが、ご夫婦で治療に取り組まれた貴重な体験を、お語り下さいました。その語りは、心に響き、私の生殖看護観を深める大きな刺激となりました。不妊治療をされている方々にとっての治療の目的は、子どもを授かることであることは明確なことです。そこにおける看護者の看護の目的は、何なのかということ、改めて深く考えさせられました。不妊治療に取り組まれるカップルにとって、子どもを授かることは最大の目的ですが、たとえ結果的に子どもを授かることができなくとも、そこにはカップルにとって人間としての深まりや成長が確かに残り、その後の人生に大きな意味をもたらす体験であるのだと知りました。そのことを考えると、生殖看護の目的は、子どもを授かる授からないに関わらず、治療に取り組むカップルが、迷い寄り添い合い、時にはぶつかり合いながら、それぞれのカップルらしい自己決定をして、乗り越えていく中から何かを学び取り、人間としての成長を遂げていく過程として治療の意味を見いだせるように、カップルに心を向け続け、その過程を支えることではないかと思いました。

午後からの一般演題では、ポスター発表をさせて頂きました。日頃から、生殖看護に携わり研鑽を積み重ねている不妊看護認定看護師や看護職の皆さんから、ご質問や貴重なご助言を頂くことができ、今後、不妊男性への看護の研究に取り組みたいと考えている私にとって、新しい知見を得る機会となり、更に深く生殖看護について学びたいという想いが強くなりました。

そして、もう一つの学びは、学術集会の企画運営という裏方のお仕事をさせて頂く中にありました。学会は、看護の対象者の方々の暖かいご協力、そして日々現場で活躍され成果を積み重ねている会員の皆様方のご努力と、毎年、学術集会で心を込めて準備して下さっているスタッフの方々のお力の支えがあるのだということ、強く実感いたしました。今回の学術集会の参加で学び得たことを、今後の自分自身の活動に力強く生かしていきたいと思っております。

## 平成22年度 日本生殖看護学会 総会報告

日時：平成22年9月12日（日） 11:15～11:55  
 場所：徳島大学病院 長井記念ホール  
 出席：会場出席者45名、委任状111通  
 （本学会則第16条により総会成立）

総合司会：清水理事  
 議長：岸田理事（第8回学術集会長）

### <報告事項>

1. **理事会報告（森理事長）**  
 平成21年度に開催された8回（うち2回は書面）の理事会について報告。
2. **総務（事務局）報告（清水理事）**  
 平成22年7月31日現在、会員数は307名。  
 主な活動は会員管理、関連団体・機関（健やか親子21推進会議・看護系学会等社会保険連合（看保連）・看護系学会協議会）への対応、学会ホームページの運営と管理の実施
3. **委員会事業報告（平成21年9月1日～平成22年8月31日）**
  - 実践開発委員会（橋村理事）**：HP上での学会員における看護上の相談対応。平成21年度の相談件数は0件。在宅自己注射に関するワーキンググループに参加。幹事（不妊症看護認定看護師9名）に、実践開発委員会の活動支援及び研修支援について周知。
  - 教育推進委員会（森恵理事）**：九州・関西・関東の3地区の勉強会をサポート。勉強会等助成基準案を作成し、学会HPで周知予定。来年度開催予定の教育研修セミナーの要望について、第8回学術集会でアンケート調査を実施。
  - 広報委員会（野澤理事）**：平成21年10月、平成22年2月、6月の3回ニュースレターを発行。発行より1年経過したニュースレターをPDF化し、全ページを学会HPに掲載。関連学会や研修会、関連大学、認定看護師教育課程、医療機関等に学会リーフレットを配布しPRを実施。「会員の輪を広げよう!! 各会員の皆様お一人様紹介キャンペーン」で、会員へ紹介を呼び掛け。
  - 編集委員会（森理事長（代理））**：学会誌第7巻第1号を発行するための編集活動を実施。学会誌発行に関する見直しとして、専任査読委員を依頼（期間：2年）。科学技術振興機構の学会誌抄録利用について理事会で承認。
  - 将来検討委員会（長岡理事）**：国内の情報収集として、国（厚生労働省）及び関連学会の動向に関する情報を収集。不妊に関連する国内外のトピックスに関し適宜情報収集。当該年度開催予定の国内外の学会に関する情報を掲載。研究助成金2件分（200,000円）を積み立て。前年度の研究助成に関する問い合わせ対応及び管理。平成22年の研究助成をHP及びニュースレターを通じて公募。2件の申請に対し研究助成審査会を開催し、決定後に諸手続きを実施。
  - 看保連対応ワーキンググループ（清水理事）**：「看護系学会社会保険連合（看保連）」の看護技術評価委員会に所属。本年度も総会・看護技術評価委員会に出席しその動向を把握。平成22年度診療報酬改定に向けて、本会から医療技術評価提案書（保険既収載技術用）「在宅自己注射指導管理料」を提出し、8月27日に厚生労働省保険局のヒアリングを受けた。

**在宅自己注射マニュアル作成ワーキンググループ（長岡理事）**：不妊患者がより安全に自己注射を実施するための指導プロトコルの作成を目的としてワーキンググループを立ち上げ。プロトコル作成に向けての資料収集、情報収集を行い、作成方法について検討。

4. **平成22年研究助成審査結果（長岡理事）**  
 平成22年研究助成審査会（平成22年8月31日：書面）選考結果：申請件数：2件、採択件数：2件。審査委員：有森直子氏、野澤美江子氏、矢野恵子氏
  - 1) 研究代表者：清水清美氏  
 採択テーマ：非配偶者間人工授精（AID）を選択するカップルのエンパワメントに関する研究—事前準備セミナーの効果検証—
  - 2) 研究代表者：長岡由紀子氏  
 採択テーマ：不妊患者への在宅自己注射指導プロトコル案の作成  
 第8回理事会（平成22年9月11日開催）で選考結果を承認。
5. **日本看護系学会協議会への協力（野澤理事）**  
 日本看護系学会協議会「高度実践看護師制度検討」に係る事業—特定看護師（仮称）が行う医行為に関する検討—に対し、認定看護師にヒアリングを実施し返答。  
 \* 報告事項に関し、会場からの拍手により承認。

### <審議事項>

1. **平成21年度収支決算報告ならびに会計監査報告**  
 上澤理事より、平成21年度の一般会計および特別会計の収支決算（案）を報告。  
 遠藤監事より、平成21年度の収支決算に関して、平成22年9月10日に決算書面およびそれに付随する証票に照らして監査を執行した結果、適当であった旨を報告。  
 \* 収支決算報告ならびに会計監査に関し、会場の挙手により承認。
2. **平成22年度事業計画案（本号p4に掲載）**  
 昨今の報道を受け、倫理的な問題に関して本学会から関係機関や関連学会に働きかけ等を行う予定について質問あり。森理事長より、事業計画案として具体的には挙がっていないが、国内の関連学会においても倫理的な問題についての提案等は現時点では出されていないこともあり、将来的には学会として検討していく方針であると回答。  
 \* 平成22年度事業計画は、会場からの拍手により承認。
3. **平成22年度収支予算案**  
 平成22年度収支予算案を報告。  
 \* 平成22年度の収支予算案について、会場の挙手により承認。
4. **第9回・第10回学術集会の開催と学術集会長**  
 第9回学術集会長は北里大学の北里悦子氏（平成21年総会にて承認済み）、第10回学術集会長として滋賀医科大学医学部附属病院の橋村富子氏が理事会で推薦された旨報告。  
 \* 第10回学術集会長について、会場からの拍手により承認。

## 平成22年度事業計画

### 1. 常任委員会

- ◆総務（事務局）：個人情報保護法に基づいた会員管理とHPの運営・管理、関連団体・機関への会議出席や学会としての意見提出の実施と拡大
- ◆実践開発委員会：HP上での学会員における看護上の相談対応、相談活動のPR、不妊症看護認定看護師の認定後の継続教育を支援していくための活動
- ◆教育推進委員会：生殖看護実践セミナー・勉強会の開催
- ◆広報委員会：ニュースレターの企画・編集及び発行、関連学会などでPR活動（学会リーフレット配布）
- ◆編集委員会：日本生殖看護学会誌第8巻1号の発行に向けての投稿原稿の受付、査読依頼、採否の決定
- ◆将来検討委員会：国内外の情報収集と発信、研究助成関連の運営・管理

### 2. 特別委員会

- ◇看保連対応ワーキンググループ：看保連の総会・看護技術評価委員会に出席し、学会として取り組む診療報酬に関連する看護技術についての検討を継続。
- ◇在宅自己注射マニュアル作成ワーキンググループ：不妊医療施設からの資料及び情報収集し不妊症看護認定看護師やART実施施設の看護職の意見を集約、プロトコル案を作成。

## 平成22年度収支予算案

### 一般会計

（平成22年9月1日から平成23年8月31日まで）

#### 収入の部

（単位：円）

大科目	小科目	予算額	備考
会費収入	年会費	1,842,000	307名×6,000円
繰越金	前年度繰越金	1,002,637	
収入合計	収入合計 (A)	2,844,637	

#### 支出の部

科目	小科目	予算額	備考
会議費		[685,000]	
	理事会会議費	650,000	理事交通費全額支給
	総会費	35,000	
事業費		[1,090,000]	
	広報委員会	360,000	ニュースレター400部、学会リーフレット作成
	教育推進委員会	100,000	
	実践開発委員会	50,000	
	編集委員会	270,000	
	将来検討委員会	210,000	
	学術集会・講演会補助費	100,000	
事務費		[410,000]	
	人件費	300,000	アルバイト（PC入力・HP管理）
	通信・送金費	40,000	
	消耗品・雑費	70,000	
団体登録料		[110,000]	
	日本看護系学会協議会	80,000	
	看保連	30,000	会員300人以上1万円加算
活動費		[100,000]	
	ワーキングプログラム	100,000	
	予備費等	449,637	
	支出合計 (B)	2,844,637	

### 特別会計：研究助成金積立金

（単位：円）

小科目	収入	支出	残額	備考
	積み立て額	助成額		
22年度	200,000	200,000	0	一般会計より
前年度までの積立金	350,198	0	350,198	
収入合計 (A)	550,198	200,000	350,198	

## ◎これから行われる学会・研修会等のお知らせ (2010年10月～2011年3月)◎

月	日	学会・研修会名	会場	学術集会照会先・事務局
10月	23日～27日	American Society for Reproductive Medicine (第66回)	デンバー (米国コロラド州)	ASRM <a href="http://www.asrm.org/">http://www.asrm.org/</a>
11月	5日・6日	日本母性衛生学会 (第51回) 「地方における周産期医療を考える」	金沢市アートホール, 石川県立音楽堂, ホテル日航金沢 (金沢市)	金沢医科大学 産科婦人科学講座 医局内 TEL:076(218)8143 FAX:076(286)2629 <a href="http://www.bosei-eisei.org/">http://www.bosei-eisei.org/</a>
	11日・12日	日本生殖医学会 (第55回) 「これからの日本の生殖医療を考える」	あわぎんホール (徳島県郷土文化会館), ホテルクレメント徳島 (徳島市)	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス 研究部 産科婦人科学分野内 TEL:088(633)7177 FAX:088(631)2630 <a href="http://www.jsrm.or.jp/">http://www.jsrm.or.jp/</a>
12月	3日・4日	日本看護科学学会 (第30回) 「看護をつなぐ」を科学する	札幌コンベンション センター/札幌市産業 振興センター (札幌市)	株)イベント・コンベンション・プロ TEL:011(299)5910 FAX:011(299)5911 <a href="http://plaza.umin.ac.jp/~jans/">http://plaza.umin.ac.jp/~jans/</a>
2011年 2月	6日	日本生殖医療心理カウンセリ ング学会 (第8回)	都市センターホテル (東京都千代田区)	<a href="http://www.repro-psycho.org/">http://www.repro-psycho.org/</a>
3月	5日・6日	日本助産学会 (第25回) 「未来に継ぐ助産学 —助産の知と技、精神—」	名古屋国際会議場 (名古屋市)	株式会社コンベンションリンクージ TEL:052(262)5070 FAX:052(262)5084 <a href="http://square.umin.ac.jp/jam/">http://square.umin.ac.jp/jam/</a>

\*2010年10月18日現在の情報です。詳細は各学会・学術集會事務局へお問い合わせ下さい。

## 2009年度関東地区勉強会報告

報告者：東京ベイレディースクリニック 糸川 優子

2009年2月7日(日)、聖路加看護大学2号館にて「治療体験者の話から不妊症看護を考える」をテーマに掲げ、関東地区勉強会を開催いたしました。短期間での案内にもかかわらず、28名(認定看護師8名、看護師13名、助産師2名、その他3名)にご参加いただきました。

講師に、NPO法人Fineの松本亜樹子代表、他会員3名をお迎えし、不妊治療体験談をお話いただき、日々の不妊症看護について振り返ると共に、今後必要とされる患者ケアについてグループディスカッションを行いました。自らの看護の振り返りとして(グループ発表より抜粋)「不妊の患者さんと話すのが怖い」「(自分が不妊体験者ではないので)どう関わったらよいのか分からなかった」「患者数が多く、流れ作業になっていた」等の振り返りがありました。看護師として体験者の方にできることは(グループ発表より抜粋)「相談しやすい態度で接する」「自分の存在をアピールする」「もっと患者さんの声を聞いていきたい」「パートナーの存在を忘れずに看護していきたい」「患者さんが相談できる窓口の案内を行う(自助グループ、ネット、患者会の紹介も含む)」「患者さんへ看護者として何が提供できるのか考えたい」「気持ちの理解、応援すること、支持すること」「仕事と治療の調節。相手の状況を分かって声をかけること」「医療者との信頼関係構築のための手助け。橋渡し役になる」「『大丈夫』と言う患者さんの言葉の裏を読み取り関わっていく」「看護師もこのような場(勉強会等)で横の繋がりをもち、情報交換してほしい(Fineより)」等、今後の看護に対する具体的な気付きが聞かれました。

グループディスカッションでは、Fine会員の方々にも参加していただき、患者と看護者の積極的な意見交換がおこなわれました。不妊治療は、体験者にしか解らない計り知れない精神的負担があり、医療者側に何を求めているのかを体験談や意見を通じ知ることができました。患者と医療者が時間を共にし、患者の背景を理解、配慮した中で治療におけるゴールとプロセスを共有することが大切となることを教えていただきました。その為には、一人でも多くの方に認定看護師の存在を認知してもらえよう、活動を通して信頼関係を深め支援していく必要があると、今後の看護が明確となり再認識することができました。今後も勉強会や自助グループとの関わりを通じて情報交換を行い、貴重な体験談や意見を各々の看護活動で生かし深めていきたいと思えます。

今後取り上げて欲しいテーマの希望として、『男性不妊症への看護』『治療終結』について多く聞かれました。次回、勉強会テーマの参考にしていきたいと思えます。

## 各地区で開催される勉強会のご案内

### 2010年度関東地区勉強会

- 【日時】平成23年1月30日(日) 13:00~15:30  
 【場所】聖路加国際病院 トイスラーホール  
 【テーマ】不妊症看護の支援における養子縁組の位置づけ ~養子縁組を知ろう!~  
 【内容】1. 養子縁組に関する講演  
 2. グループワーク  
 【ねらい】養子縁組に関する知識を深めた上で現状を理解し、不妊の問題を抱える対象へのアプローチ方法について考える  
 【参加費】1,000円  
 【連絡先】聖マリアンナ医科大学病院 山本志奈子 (e-mail: shinako@mb1.suisui.ne.jp)

詳細につきましては、後日学会HPでお知らせしますので、ぜひご覧ください。

### 東海地区勉強会

- 【日時】平成23年1月30日(日) 10:00~12:30  
 【場所】聖隷浜松病院  
 〒430-8558 静岡県浜松市中区住吉2-12-12 TEL 053-474-2222 (代)  
 【テーマ】妊娠する前からの健康管理と指導  
 【内容】1. 講義: ①妊娠高血圧症候群の病態生理と治療  
 (聖隷浜松病院 総合周産期母子医療センター長 成瀬寛夫医師)  
 ②妊娠高血圧症候群の看護(碧南総合病院 助産師 鈴木順子)  
 2. 妊娠高血圧症候群症例の事例紹介後、グループワークでの検討  
 【ねらい】不妊治療を開始する前から健康管理は大切である。不妊治療対象者は、多少高血圧気味で内科受診しても様子を見て良いといわれる事が多い。しかし、妊娠してから妊娠高血圧症候群を発症すると、これまでしてこなかった健康管理指導をされる。患者はあまりの厳しさに医療者に反発したり、現実を受け止められないこともある。そこで、妊娠前から患者自身が健康管理できる効果的な指導を参加者とともに考えたい。  
 【参加費】資料代500円  
 【連絡先】西垣ARTクリニック 小池弘子 TEL 0538-33-4455  
 E-mail hirobloom0828@nifty.com

### 第8回九州地区勉強会

不妊症患者の支援者である私たち自身のストレスマネジメント、そして患者ケアにも役立つ内容で、楽しく学べる構成となっています。皆様、お誘い合わせのうえ、ふるって御参加ください。お待ちしております。

- 【日時】平成23年1月30日(日) 13:00~16:00 (12:30~受付開始)  
 【場所】国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 研修講堂  
 【テーマ】支援者のためのストレスマネジメント-輝く笑顔で看護を続けられるために-  
 講師: 田中京子氏 (SATカウンセリング、カウンセリングオフィスKR代表)  
 【内容】13:00~14:20 遺伝的気質に基づく自己理解・他者理解について  
 14:30~15:50 ストレスに強くなるコツ (イメージワーク含む)  
 【参加費】1,000円  
 【連絡先】熊本大学医学部附属病院 周産母子センター 本田万里子  
 〒860-8556 熊本市本荘1丁目1番1号  
 TEL 096-373-7046 (FAX可)  
 E-mail mariko-honda@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

## 各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマ或いは内容、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス)等を下記の連絡先までご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

- 連絡先 森 恵美 mori@faculty.chiba-u.ac 阿部正子 abe\_masa@md.tsukuba.ac.jp  
 千葉大学看護学部 母性看護学教育研究分野 筑波大学大学院人間総合科学研究科  
 〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 TEL/FAX: 029-853-3440  
 TEL: 043-226-2410 FAX: 043-226-2414



## 理事会報告



### 第6回理事会

日時：平成22年8月6日（金）18時00分～21時00分  
場所：聖路加看護大学2号館5階ミーティングルーム  
出席：森明、上澤、岸田、清水、長岡、野澤、橋村、  
矢野 オブザーバー：芝崎

#### 【報告事項】

1. 将来検討委員会：平成22年研究助成の申請は2件。  
近日中に審査予定。
2. 在宅自己注射マニュアル作成WG：3回目のミーティングを開催し、今後の進め方を確認。
3. 高度実践看護制度のあり方検討会緊急集会：本学会は検討会に参加しつつ静観していくことを確認。
4. 第8回学術集会：一般演題（口演・ポスター）、分科会等の学術集会の構成について確認。

#### 【審議事項】

1. 入会審査：3名の新規入会を承認。
2. 平成22年日本生殖看護学会 総会要綱（案）の検討

### 第7回理事会（書面）

日時：平成22年8月20日（金）

#### 【審議事項】

1. 入会審査：2名の新規入会を承認。

### 第8回理事会

日時：平成22年9月11日（金）17時00分～19時00分  
場所：徳島大学保健学科A棟1階看護総合実習室A11

出席：森明、阿部、遠藤、上澤、岸田、清水、野澤、  
橋村、森恵、矢野

#### 【報告事項】

1. 将来検討委員会：8月31日開催の研究助成審査会（書面）にて2件の平成22年度研究助成の承認を受け、本理事会においてもこの2件の研究助成を承認。
2. 第8回学術集会：基調講演、会長講演および当事者のフリートークは参加費無料で一般参加可。

#### 【審議事項】

1. 入会審査：2名の新規入会を承認。
2. 平成21年度収支決算書（案）：修正のうえ承認。
3. 平成22年度事業計画案・収支予算案
  - 1) 収支予算案：平成22年度以降は助成対象年度と助成金の払込年度を連動させることを確認。
  - 2) 平成22年度事業計画案

実践開発委員会：本学会員である認定看護師の意思を尊重しつつ、メーリングリストを作成することを承認。

教育推進委員会：勉強会等助成要項（案）を修正のうえ承認。本要項は学会HPで会員へ周知予定。

広報委員会：今後は小児を含むがん看護領域においてもPRし、会員拡大及び連携を図っていく方向で検討。

認定看護師に関する調査を「日本看護系学会協議会への協力」として平成21年度事業報告することを確認。

その他の事業計画案は承認され、平成22年総会にて審議の予定。

## 掲示板

### 不妊症看護認定看護師教育課程の研修生募集（2次募集）

<聖路加看護大学看護実践開発研究センター>

2011年度の不妊症看護認定看護師教育課程の研修生を募集いたします（2次募集）。

願書受付期間：2011年2月1日（火）～2月12日（土）消印有効

試験日：2011年3月5日（土）

研修期間：2011年6月1日～2012年2月28日

\*毎週金曜・土曜の2日間が授業日です。ただし、8月末～9月末の1ヶ月間は平日連日の集中授業、1月～2月の1ヶ月間は実習になります。

また、併せて2010年度の聴講生も募集しております。

詳細は、本学ホームページ（<http://rcdnp.slcn.ac.jp/nintei/>）にてお知らせしています。

## もし不妊看護の現場で行き詰ったら…

## 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考にしていただけるよう、相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

## ◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など

## ◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp>) にアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

## 事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX: 03-6226-6380 もしくは E-mail: [jsin@slcn.ac.jp](mailto:jsin@slcn.ac.jp) まで、お気軽にご連絡ください。
2. ニュースレターは郵送ではないので転送はされません。したがって、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡ください。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

## 重要 会費の納入をお願いします

平成22年度会費(平成22年9月1日～平成23年8月31日の諸活動に伴う会費です)の納入をお願いいたします。

口座番号: 00170-2-333413 加入者名: 日本生殖看護学会 年会費: 6,000円

\*ニュースレターに「払込取扱票」を同封してあります。過年度分が未納の方には今年度分との合計額を印字しておりますので、払込取扱票に表示されている金額の納入をお願いいたします。入金確認の時間差もあることから、表示された金額が払込事実と合わない場合には事務局までご連絡ください。

## 編集後記

今年の夏は例年になく猛暑が長引き、体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。その一方、猛暑特需で個人消費は好調に推移し、特にエアコンと外食の売上が好調だったそうです。皆さんの猛暑対策はいかがでしたか? もう一つのトピックは、提供卵子による体外受精の公表です。改めて、倫理的問題及び法整備の問題を早急に考える時期になってきたことを痛感しました。

遅ればせながら、本学会も平成22年度がスタートしました。今年度はがん看護など関連領域と連携をはかるための広報活動にも頑張っていこうと思っておりますので、引き続きご協力よろしくお願いたします。

(広報委員: 野澤美江子、矢野恵子)

## 日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail [jsin@slcn.ac.jp](mailto:jsin@slcn.ac.jp)

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>